

一聞いて一だけをして日向ぼこ

藤田湘子

何だか叱られている気分。でも「日向ぼこ」だから、それでよし、と容認されているような気もする。

賢者は一を聞けば十を悟り、自ずと道を開いてゆく。対して、一を聞くことすら覚束なくて、暖簾に腕押しどころ吹く風の者も居る。聞き止めたとしても行動に移せなければ聞かなかつたに等しい。「一聞いて一だけをして」で以て瞑すべしかも知れないが、その差は歴然。

湘子先生いわく、現状維持は即ち後退であつて、前進か後退かいずれしかない。日々変革を目指していないと即後退である。そして、他人の句が評されている時に、どこまで我が事として捉えることが出来るかが大事。

「日向ぼこ」は戒めと叱咤激励であるような気がする。

1984年 (s59.11作) 第七句集 『去来の花』 鑑賞・野本京